

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成25年6月27日 (2013.6.27)

【公表番号】特表2012-532592(P2012-532592A)

【公表日】平成24年12月20日 (2012.12.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-054

【出願番号】特願2012-519002(P2012-519002)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 L 27/00 (2006.01)

A 6 1 K 35/18 (2006.01)

A 6 1 K 35/14 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/04 (2006.01)

A 6 1 P 7/06 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 3/06 (2006.01)

A 6 1 K 35/48 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 5/00 1 0 2

A 6 1 L 27/00 V

A 6 1 K 35/18

A 6 1 K 35/14 C

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 43/00 1 0 7

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 7/04

A 6 1 P 7/06

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 3/06

A 6 1 K 35/48

A 6 1 K 35/76

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月10日 (2013.5.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細胞におけるMycファミリー遺伝子およびKlfファミリー遺伝子の発現を活性化する工程を含む、機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するためのin vitroにおける方法。

【請求項2】

Mycファミリー遺伝子および/またはKlfファミリー遺伝子をコードするベクターを使用する、請求項1記載のin vitroにおける方法。

【請求項3】

ベクターがウイルスベクターである、請求項2記載のin vitroにおける方法。

【請求項4】

ウイルスベクターがレトロウイルスベクターである、請求項3記載のin vitroにおける方法。

【請求項5】

レトロウイルスベクターがレンチウイルスベクターである、請求項4記載のin vitroにおける方法。

【請求項6】

ウイルスベクターがアデノウイルスベクターである、請求項3記載のin vitroにおける方法。

【請求項7】

細胞を、Mycファミリータンパク質およびKlfファミリータンパク質と接触させる工程を含む、機能的に分化した体細胞の増強された自己再生のためのin vitroにおける方法。

【請求項8】

Mycファミリー遺伝子またはタンパク質がc-Mycである、請求項1～7のいずれか1項記載のin vitroにおける方法。

【請求項9】

Klfファミリー遺伝子またはタンパク質がKlf4である、請求項1～7のいずれか1項記載のin vitroにおける方法。

【請求項10】

Mycファミリー遺伝子またはタンパク質がc-Mycであり、そしてKlfファミリー遺伝子またはタンパク質がKlf4である、請求項1～9のいずれか1項記載のin vitroにおける方法。

【請求項11】

機能的に分化した体細胞が、表皮細胞、上皮細胞、ケラチノサイト、ニューロン、グリア細胞、軟骨細胞、膵内分泌細胞、肝細胞、内皮細胞、赤血球、リンパ球、単球、マクロファージおよび樹状細胞を含む造血細胞、心筋細胞および他の筋肉細胞、骨芽細胞および破骨細胞からなる群より選択される、請求項1～10のいずれか1項記載のin vitroにおける方法。

【請求項12】

細胞を、Mycファミリータンパク質およびKlfファミリータンパク質の活性を模倣する生物学的または化学的な化合物と接触させる工程を含む、請求項1または請求項7記載のin vitroにおける方法。

【請求項13】

前記の生物学的または化学的な化合物が、c-MycおよびKlf4タンパク質の活性を模倣する、請求項12記載のin vitroにおける方法。

【請求項14】

Klf4タンパク質活性を模倣する前記の化学的な化合物が、ポーロン構造クラスに属する化学的な化合物である、請求項13記載のin vitroにおける方法。

【請求項15】

c-Mycタンパク質活性を模倣する前記の生物学的または化学的な化合物が、Wntシグナル伝達経路を活性化する化合物である、請求項13記載のin vitroにおける方法。

【請求項 16】

Wntシグナル伝達経路を活性化する前記の化学的な化合物が、5-チオフェンピリミジンクラスに属する化学的な化合物である、請求項15記載のin vitroにおける方法。

【請求項 17】

My cファミリー遺伝子およびK l fファミリー遺伝子の発現を活性化する生物学的または化学的な化合物を使用する、請求項1記載のin vitroにおける方法。

【請求項 18】

前記の生物学的または化学的な化合物が、c - My cおよびK l f 4の発現を活性化する、請求項17記載のin vitroにおける方法。

【請求項 19】

c - My cおよびK l f 4の発現を活性化する前記の生物学的または化学的な化合物が、シグナル伝達兼転写活性化因子3 (S T A T 3) のアクチベーターである、請求項17記載のin vitroにおける方法。

【請求項 20】

機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するための方法において使用するための、My cファミリー遺伝子またはタンパク質およびK l fファミリー遺伝子またはタンパク質の組合せ。

【請求項 21】

機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するための方法において使用するための、My cファミリー遺伝子またはタンパク質およびK l fファミリー遺伝子またはタンパク質を含むキット。

【請求項 22】

機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するためのMy cファミリー遺伝子またはタンパク質およびK l fファミリー遺伝子またはタンパク質のin vitroにおける使用。

【請求項 23】

My cファミリー遺伝子またはタンパク質がc - My cであり、そしてK l fファミリー遺伝子またはタンパク質がK l f 4である、請求項22記載のin vitroにおける使用。

【請求項 24】

請求項1～19のいずれか1項記載の方法によって得ることのできる機能的に分化した体細胞の個体群。

【請求項 25】

請求項24記載の機能的に分化した体細胞の個体群および薬学的に許容される担体または賦形剤を含む、薬学的組成物。